

COLLEGE INFORMATION



甲子園短大通信

甲子園短期大学 発行

新成人の門出を祝福する式であると同時に、卒業を控え社会に飛び立つとするとする二回生が成人として自らの責任と義務を再確認する誓いの場でもあります。

【第一部】



学院高校講堂にて久米知子理事長先生のご臨席を賜り、「平成二十六年学内成人式」が執り行われました。

開学50周年記念

平成二十六年学内成人式 成人としての決意も新たに

元宝塚歌劇団の歌花由美氏をお招きして、「夢プロジェクト 未来に希望を・・・心に愛を！」と題し、お祝いの言葉と歌の演奏を聴かせていただきました。

【第二部】

それに応えて、学生代表として幼児教育保育学科の岩崎恵里加さんが、学内成人式へのお礼の言葉とともに、「成人としての自覚と責任を心に留め、自立した一人の女性として社会に貢献できるよう歩んでいきたい」と誓いの言葉を述べました。

一回生は、成人となる先輩をお祝いするために参加し、厳肅な雰囲気の中で行われました。



歌花氏は一九九〇年に宝塚音楽学校へ入学、一九九二年に宝塚歌劇団入団、その後花組に配属され、劇団の歌姫として活躍されました。

最後に、新成人へ向けて、ご自身の経験を踏まえた励ましの言葉をいただきました。夢だった宝塚音楽学校への入学を決意したこと、日々厳しい練習に耐えたこと、目標に向

成人となった私たちにこのような場を与えて下さり、心から感謝申し上げます。

短大生活の二年間を振り返ると、校訓三綱領である「勉勉努力」「和衷協同」「至誠一貫」の精神を学び、勉学や実習などの出来事が思い起こされます。

学内成人式に出席して 学生代表 岩崎 恵里加

気分転換



助教 種子田 順子

「趣味は何ですか」と聞かれると、すぐに答えられるものがなかなか見つかりません。でも、美味しい物を食べる、家族や友人たちと旅行や山登りに行くこと、ピアノを弾くこと、友人たちが出演するコンサートを聴きに行くこと、映画やミュージカルを観ること、本を読むことなど好きなことはたくさんあります。

My Favorites



しかし、ある年の春、友人が「屋久島へ縄文杉を見に行こう！」と誘ってくれ、屋久島に向かいました。朝五時に入山し、往復十時間かけて歩いて見た縄文杉に元氣と勇気もらい、「そうだ！次は富士山に登ってみよう！」と、またその友人と一緒に富士山へ行く計画を立てました。

「山小屋で一泊するのだから、大きいリュックも要るよね。」「トレッキングシューズを初めて履いたら靴擦れするらしいから、六甲山で登山の練習をしよう！」など、富士山登山に向けては、慎重に準備をしました。こうした準備期間を経ながら、山登りがしだいに楽しくなってきました。

伊勢志摩フィールドワーク研修

一回生全員が一泊二日の行程で、伊勢志摩へ出かけました。研修一日目、最初の研修先は、志摩スベイン村です。しばらく自由時間を楽しんだ後、普段入ることのできないバックヤードへ移動し、研修が始まりました。



研修は学生にとって初めての経験で、交流が広がる良い機会となりました。この経験が、今後活かされることを願っています。

◆学友会新役員決まる◆

- 平成二十六年十二月十二日(金)に開催された学生総会において、平成二十七年の学友会役員が、次のように承認されました。活躍を心から期待します。

甲子園短大通信 第78号 (編集・発行)甲子園短期大学広報委員会 〒663-8107 西宮市林町四一五 TEL:079-816-5111 FAX:079-816-7190 http://www.koshien-c.ac.jp

短大・中高合同文化祭「甲子園短期大学二〇一四大学祭」

甲子園学院中学校・高等学校の文化祭と合同で十月十九日に開催しました。
中高の校舎で行われた子ども遊びコーナーでは、家族連れで子どもたちが訪れ、幼児教育を学ぶ在学生と様々な遊びを通じて交流を深めることができました。また、多くの卒業生が訪れ、本学教員との交流を通じて昔話に花を咲かせる姿が印象的でした。学生食堂では、各クラスが工夫を凝らした模擬店を多数出店していました。在学生の家族や友人たちが多く来場し、学生が調理した焼きそばやタコスなどを美味しく食べていました。また、中高の生徒が出店していた模擬店も大盛況でした。

開学五十周年記念特別展



本学にゆかりのある作家による素晴らしい美術作品を集めて、十月に十二日間わたり久米アートミュージアムにて開催しました。書では木村知石先生、中川攝陽先生、久米翠娥先生の作品を中心に扁額や軸などがあり、絵画では須田剋太先生と網島徹夫先生の百号の大作から色紙までの展示でした。いずれも見ごたえのあるものばかりで、近隣にお住いの一般の方や卒業生、本学学生や教職員も鑑賞に訪れて楽しみました。

開学五十周年記念書道展



「甲子園短期大学開学五十周年記念書道展」が、十二月九日から十四日まで西宮市立北口ギヤラリーで開催されました。昭和五十八年にスタートして以来、今回で三十二回目となり、中川攝陽先生、久米翠娥先生の協賛出品もありました。学生の作品は、二回生は卒業研究として、一回生は



トし、全てのプログラムを無事に終えることが出来ました。同窓会総会も開学五十周年記念として開催し、たくさんの卒業生が訪れて旧友との交流を深めることができました。
今年は開学五十周年を迎え、中高との合同文化祭であったため、例年以上に多くの方々を迎えることができました。在学生、卒業生、教職員が力を合わせ、中高の生徒や教職員の皆さんの協力を得ることで、開学五十周年にふさわしい大学祭を開催することができました。

図書館公開講座

開学五十周年記念の附属図書館公開講座が二回にわたって開催されました。
第一講の九月二十七日(土)には、宮内庁正倉院事務所所長の杉本一樹氏が、「聖武天皇と光明皇后―正倉院とゆかりの品々―」と題して、第六十六回正倉院展に先立ち、展示される聖武天皇遺愛の宝物について詳細に説明いただきました。

「園芸教育研究五十年の歩み」を刊行

本学が開学以来、人間教育の一環として取り組んでまいりました園芸教育を、「園芸教育研究五十年の歩み」として纏め、昨年十月に刊行しました。
「甲子園短期大学における園芸教育研究の歩み」「担当教員からの寄稿」「写真と記事にみる園芸教育研究の歴史」「エキウムによる研究活動と地域貢献」など六章で構成されています。
刊行にあたり、西良祐元教授、永野明範元助教からも玉稿をいただくことができました。また、本学の園芸教育を紹介した新聞記事につきましても、朝日新聞、神戸新聞社のご協力のもと、掲載することができました。これを機会に、本学の「園芸教育」の継続発展をめざし、さらなる研鑽を重ねていく所存です。

平成二十六年度 卒業研究発表会を開催

一月三十一日、学習成果の発表も含め、実技部門では二十二作品が、ステージ発表では十四題の発表がありました。
実技部門の作品では、クロスステッチでさしたテーブルクロスやパッチワークのタペストリーなどの大作、豪華なパティ料理、また論文やケーススタディのポスターも展示され、多彩な作品が会場を賑わせました。見学者は作品に触れ感觸を確認したり、論文を熱心に見入ったりして関心の高さが伺われました。



ステージ発表は、幼児教育保育学科二回生の学習成果として「Believe」カントーリロード(耳をすませばより)の合唱から始まり、穏やかな中にも一体感のある歌声を会場に響かせました。その後の口頭発表の論文部門では、『西宮神社の歴史・福男について』や『マイケル・ジャクソンの人生』といったジャンルにとらわれない内容や『絵本の影響力』と言った幼児教育の専門分野に関する内容の発表がありました。途中で絵本の読み聞かせをはさむなどの工夫もあり、楽しみながら発表に聞き入ることができました。
ピアノ独奏では、幼児教育保育学科の学生がモーツァルト作曲の『幻想即興曲』を披露しました。音が持つ力強さや優しさ、軽快さが会場を包み、ピアノの魅力を感じることができました。介護福祉専

生活環境学科は今

生活環境専攻一回生が、プロの料理家であるト部吉恵先生(本学非常勤講師)からクッキングの授業を受けました。授業では、「豆腐ハンバーグ」などの本格的な料理を作りました。



ワークで森永乳業神戸工場の見学を行いました。食品製造工場を見学することで、食品製造に関する知識を深めることができました。また、チーズ作り体験を通して、食

幼児教育保育学科は今

幼児教育保育学科では、現場でいかに実践力の育成のために様々なプログラムを実施しています。



一回生は十二月に地域のクリスマス会に参加しました。ペープサートやベルの演奏を行うなど、授業で学んだ技術を実践し、学びを深める機会となりました。
二回生は二年間の実習をすべて終え、保育者になる日を夢見ているようです。また、二回生合同の行事として、十月には王子動物園へ園外保育を想定したフィールドワークに出かけました。学年に合わせた課題を設け、事前準備、事後報告、反省までをチームに分かれて実施しました。動物園では、実際に子どもたちを引率され

ガイドヘルパー講習会



十一月二十九日(土)の三日間、本学にてガイドヘルパー養成研修を実施しました。生活環境学科、幼児教育学科の希望者四十名が参加し、福祉・医療・介護・コミュニケーションなどを幅広く学び、ガイドヘルパー資格を取得しました。
現場経験豊富な講師陣の研修内容に、学生たちは多くの質問をし、興味を持って参加していました。
利用者との関係づくりに関する講義では、演習も行いながら、信頼関係を築くことの大切さを知りました。介護技術では、福祉用具に触れて使い方や介助の方法を体験し、また受講生同士でベッド上での寝返りの介助を行い、人間の体を上手に動かすには知識が必要であることを実感しました。近隣周辺道路で車いすを使った外出の介護体験も行い、事故の防止・快適な外出援助の知識と技術も習得できました。
この講習で学んだことを、様々な場面で活用してほしいと願っています。